令和７年　瑞浪市議会
地域経済建設委員会　行政視察報告書

視察日　令和７年８月５日（火）・６日（水）

視察地　広島県尾道市・京都府亀岡市

瑞浪市議会地域経済建設委員会　委員長　大久保　京子

視察概要

<table>
<tr><td>視察日</td><td colspan="2">令和７年８月５日(火) ～ ８月６日(水)</td></tr>
<tr><td>視察
人数</td><td colspan="2">委 員 長　大久保京子
副委員長　犬塚利彦
委　　員　樋田翔太　奥村一仁　熊谷隆男
渡邉康弘　棚町　潤　辻　正之
随　　行　議会事務局　井上紗友美</td></tr>
<tr><td rowspan="2">視
察
日
・
場
所
・
内
容</td><td>８月５日(火)</td><td>【広島県尾道市】
広島県鳥獣対策等地域支援機構「tegos」について

全国的に山と人里との境界線が緩んできており、本市においても被害域が広域化している。鳥獣対策のプロフェッショナルとの関わりに、どのような成果があるか学ぶ。</td></tr>
<tr><td>８月６日(水)</td><td>【京都府亀岡市】
かめおかプラスチックごみゼロ宣言プロジェクトについて
亀岡市環境プロモーションセンターCircular Kameoka Labについて

「世界に誇れる環境先進都市・亀岡市」の、環境に配慮した行動施策のうち、市民意識を高める施策の実践等をどのように進めているのか学ぶ。</td></tr>
</table>

令和７年　地域経済建設委員会　行政視察報告書

８月５日（火）広島県尾道市

【広島県鳥獣対策等地域支援機構「tegos」について】

◆ 視察地概要

人口　125,119 人（令和７年７月 31 日現在）

面積　284.89 平方キロメートル

広島県の東南部に位置し、大半が山地で、平地は尾道水道・御調川（みつぎがわ）沿岸・島しょ部の海岸沿いに形成されている。歴史と文化に溢れる島々を結び、全長約 70 ㎞の海の道をサイクリングで満喫できる「しまなみ海道」をはじめとする新たな魅力と歴史・伝統に育まれた資源を活かし、他にはない魅力的な価値を持つまちづくりを推進している。

瀬戸内のほぼ中央に位置し、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道に加え、平成 27 年３月に全線開通した中国やまなみ街道（中国横断自動車道尾道松江線）により広域拠点としての機能は高まり、まさに「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待される都市である。

◆ 視察目的

全国的に山と人里との境界線が緩んできており、本市においても被害域が広域化している。鳥獣対策のプロフェッショナルとの関わりに、どのような成果があるか学ぶ。

◆ 視察項目

- 捕獲に従事する狩猟後継者の育成の内容と成果。
- 支援が複数市町にまたがる中で、活動優先順次の付け方や調整はどのように行っているか。
- 各市町の行政職員と外部人材である FA の間の役割分担や連携体制において、苦労した点は何か。
- ICT 技術の導入状況。
- 今後、参画市町が増えることで、支援体制や人材配置にどのような影響が出ると見込んでいるか。支援の質を保ちつつ対象地域が拡大することへの備えについてどう考えているか。

◆ 視察報告

広島県鳥獣対策等支援機構 tegos からの FA（フィールドアドバイザー）派遣により、防護柵や電気牧柵等の正しい設置方法を指導することで、被害の低減へとつながっている。農業者からの相談を受け、現地確認すると、正しく柵を設置されている場所は、ほぼない。

FA の活動は、地元農業者との信頼関係の構築が重要である。現地指導などにより、専門家からの指導を素直に聞き入れてもらえるようになり、成果も徐々に表れてきている。

◆ 考　察

tegos の活動は大きな意義があり、内容も非常に参考になるものと考える。鳥獣被害への対策には、広域的な取り組みが必要であり、tegos がそのハブ機能をはたしていることは大きな強みである。広域的な対策強化は農作物の鳥獣被害の軽減を図るために有効な仕組みであると考える。

勉強会を開催し、専門家から防護柵等の正しい設置方法を学ぶ機会をつくることは、市職員の負担軽減にもつながると考える。

◆ 各委員の感想・意見

- 単純に農作物を守る事業ではなく市民生活を守る取り組みとして、瑞浪市も取り組むべきものである。
- 瑞浪市においても鳥獣対策の広域化は喫緊の課題であり、近隣自治体との連携は重要と考える。
- 瑞浪市では、電気柵の購入等に対して補助を行っているが、tegos のような専門家による電気柵の点検を行ってもらうといいのではないかと考える。

8月6日（水）京都府亀岡市

【かめおかプラスチックごみゼロ宣言プロジェクトについて】
【亀岡市環境プロモーションセンター(Circular Kameoka Lab)について】

◆ 視察地概要

人口　　85,783人（令和7年8月1日現在）
面積　　224.80平方キロメートル

京都府の南部、京都市の西に位置し、古来より都と山陰を結ぶ交通の要衝として栄えた。現在は電車で京都駅まで約20分、大阪市へは約60分の距離にあり、住宅都市として発展。府内では、有数の耕地面積をもち、麦の算出額は府内首位。京野菜栽培も盛ん。保津川下りや嵯峨野トロッコ列車などの観光資源があり、府立京都スタジアム（サンガスタジアム）が立地。

◆ 視察目的

「世界に誇れる環境先進都市・亀岡市」の環境に配慮した行動施策のうち、市民意識を高める施策の実践等をどのように進めているのかを学ぶ。

◆ 視察項目

- プラスチック製レジ袋禁止条例について、民間事業者への事前説明で、どのような意見が出たか。
- 条例により影響を受ける中小規模の小売店や個人商店に対し、市としてどのような支援処置や周知を行ってきたか。
- 亀岡商工会議所から提出された意見提言書の内容と、それに対する対応。
- パブリックコメントの意見と、それに対する対応。
- 条例導入時、市民からの戸惑いや反対意見はどの程度あったか。
- 市民の不安や反発を回避するために留意した点。

◆ 視察報告

プラスチックごみゼロ宣言は、徹底した環境重視の亀岡市をアピールする最も大きな事業である。保津川の保全、民間企業との連携、文化や教育の発展にもつなげており、単なる環境美化ではなく、地域の自然資源を守るという理念に基づいた政策である。

地域イベントにおけるリユース食器の導入や給水スポットの整備、エコウォーカー活動など、日常生活のなかに循環の視点を取り入れた施策が多層的に展開されており、サーキュラーエコノミーが実践されている。

◆ 考　察

市役所ロビーには亀岡市が行っている環境対策に対する取り組み行動が、市民に分かりやすく展示されていた。また本庁舎や市内全小中義務教育学校には無料給水機設置がされ、賛同企業も会社内に設置されている環境づくりには、驚きとともに、感動した。

「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」の制定については、職員のモチベーションも高く、多様な立場から幅広く意見が言える体制が構築されており、見習うところが多々あったと感じた。

本市では、複合公共施設が駅北に建設予定である。その施設内の一角に、市民や施設の利用者が環境意識向上を考えるコーナーを常設してみてはどうかと考える。

◆ 各委員の感想・意見

・ 清掃活動からプラごみゼロ宣言、亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例の制定や紙の袋の有料化、環境ロゴマーク作りなど、かなり進んだ取り組みだと思う。
・ 亀岡市のプラスチックごみゼロ宣言は、二人の保津川下りの船頭の取り組みがきっかけであった。民間の発想や意見をスムーズに取り入れ、形にする姿勢を見習いたい。
・ 環境先進都市を実践することは、世界中が目指す「環境保全」が目的であるが、亀岡市においては移住定住、さらには人口減少対策の一環でもある。地理的条件も重なって「安全で住みやすいまち」のコンセプトを感じる。将来を見据えたコンセプトの具体化が本市にも必要と考える。

広島県鳥獣対策等地域支援機構「tegos」について

尾道市　産業部　農林水産課

尾道市の概要①

1898年（明治31年）、広島市に次いで2番目に市制を施行しました。

周辺市町村との合併※を経ながら市域を拡大し、緑豊かな北部丘陵地域から、尾道水道周辺地域を経て、独特の多島美を有する瀬戸内海地域に至る、多彩な資源を有するまちになりました。

瀬戸内のほぼ中央に位置し、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道に加え、中国横断自動車道尾道松江線の供用開始により、広域拠点としての機能は高まりつつあります。まさに「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待されるまちです。

※2005年（平成17年）3月28日　御調郡御調町・向島町と合併
※2006年（平成18年）1月10日　因島市・豊田郡瀬戸田町と合併

尾道市の概要②

■地勢と気候

大半が山地で、島しょ部は概して急峻で平地に乏しく、平地は尾道水道・御調川沿い・島しょ部の海岸沿いに形成されています。また、国立公園である瀬戸内海は、独特の多島美を有しており、海・島と山地、丘陵が織りなす多様で豊かな自然は新市の特徴となっています。

気候は、温暖で降雨量が比較的少ない瀬戸内型に属しますが、内陸部は温度較差がやや大きい山間部の特性を示しています。

■面積　284.89k㎡
■人口　125,240人
（令和7年6月30日現在）

■産業構造

（令和2年国勢調査）

1　広島県鳥獣対策等地域支援機構「tegos」への参画について

近年の鳥獣被害は、農地や農作物はもとより、市街地に出没するイノシシ等による被害が深刻化しており、人的被害も発生しているなかで、職員の市民への対応も充分にできなくなったことから、令和６年度に発足した「広島県鳥獣対策等地域支援機構」に当初より参画し、フィールドアドバイザーの派遣を受けることで、市民（農業者）へのきめ細やかな鳥獣被害対策を実施していくことが重要であると考えて、参画を決定した。

（フィールドアドバイザーの活動）

活動は、週３日（月、水、金）勤務として、イノシシなど有害鳥獣の被害を低減するため、主に市民（農業者）から相談のあった現場確認や指導・啓発（防護柵や電気柵の設置・点検など）、地域での出前講座の講師、捕獲班との箱わなの設置補助や捕獲補助（誘因エサの実験など）などに従事しています。

フィールドアドバイザーの赴任による成果

・市民相談により、現地確認を行った際、専門家（フィールドアドバイザー）が同行することで、地元の人がアドバイスを真剣に聞いてくれるようになった。

・市が主催する出前講座の講師を担っている。開催日までにフィールドアドバイザーと地元が一緒に集落点検を行うことで地元が抱える問題点等を把握し、当日の講座に反映することができている。このことについて、フィールドアドバイザーが赴任するまでは、できていなかった。

・市街地出没の聴き取り状況をGoogleマップへ反映することで、課内共有、見える化をすることができた。

・防護柵の設置方法や補修の仕方、場合によってはフィールドアドバイザーが補修を実践することで、正しい防護柵の設置方法を伝え、アフターフォローも専任者に行っている。職員だけでは、現地対応に割く時間が確保しにくいため、助かっている。

・町内会や捕獲班が管理する箱わなの補助をフィールドアドバイザーにお願いし、地元や捕獲班とも良好な関係を築いている。

・赴任して１年が過ぎたところなので、負担軽減や目立った被害低減等の変化を感じることはないが、今まで職員ができなかった正しい防護柵設置の普及などの対応をすることにより、一人でも多くの人に知識や周知が出来るようになれば、被害低減に繋がると考えている。

赴任当初は、現地確認に職員が同行していたが、現状ではフィールドアドバイザーのみでも対応しています。

【質問事項】

Q1：捕獲に従事する狩猟後継者の育成対策の内容と成果はどのようか。

A：本市では、市の有害鳥獣の捕獲作業に従事する者及び新たに狩猟免許を取得し将来捕獲作業に従事する者の活動を支援するため、狩猟免許の取得及び更新等に要する経費について、補助をしています。

令和６年度実績：捕獲班員の免許更新者：延べ58人×@2,900円
新規免許取得者：わなのみ19人×@12,400円
わな・銃3人×@21,100円

Q2：支援が複数市町にまたがる中で、活動優先順位の付け方や調整はどのように行っているのか。

Q3：各市町の行政職員と外部人材であるFAの間の役割分担や連携体制において、苦労した点は何か。

Q4：ICT技術の導入状況はどのようか。

Q5：今後、参画市町が増えることで、支援体制や人材配置にどのような影響が出ると見込んでいるのか。支援の質を保ちつつ対象地域が拡大することへの備えについてどう考えているか。

A：以上のことについては、広島県鳥獣対策等地域支援機構よりお答えします。

プラスチックごみゼロに挑戦する亀岡市の取組み

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

目次

亀岡市 KAMEOKA CITY

- 霧のまち「かめおか」
- なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか
- 2030年に向けて～わたしたちの取組～

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

霧のまち「かめおか」

亀岡市 KAMEOKA CITY

亀岡市　三大観光の一つ『保津川下り』の四季

春

夏

秋

冬

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

～たった二人の船頭から始まった～

「環境先進都市・亀岡市への一歩」

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

保津川に溜まる、漂う、ごみ、ごみ、ごみ・・・

川沿いの木々に
かかるビニール袋

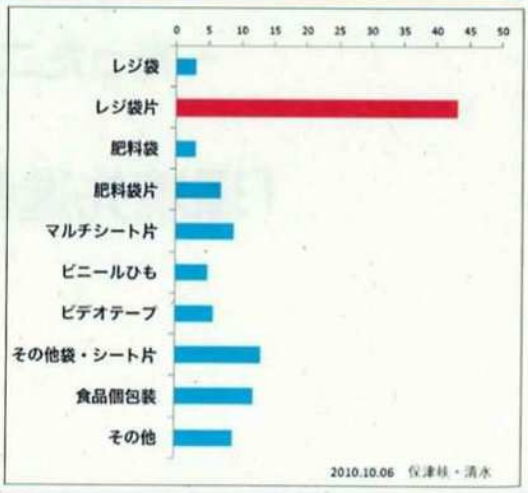
ペットボトル
空き缶

堆積する
被覆肥料

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

2人の船頭による地道な清掃活動が始まった(2004年~)



世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

「ごみ拾い」は、やがてNPO、行政などの活動へと拡大

清掃イベントには、多くの市民が参加

市民、企業など、皆の手で集められたごみ

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

河川ごみ漂流状況モニタリング調査を実施

京都・嵐山からGPS付発信機を放流

大阪湾まで約80km
- ●亀岡から大阪湾までわずか1日でごみが到達！
- ●内陸部からの発生抑制対策が重要！！

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

第10回海ごみサミット2012亀岡保津川会議を開催(2012.8)

Marine litter summit

海ごみサミット2012かめおか保津川会議
保津川がつなぐ ひと・まち・うみ
～流域から海洋ごみの発生抑制を考える～

8月24日(金)～26日(日)国内外から延べ約500名参加
・亀岡保津川宣言
・川のごみや海のごみをともに考える京都流域宣言
両宣言を発表して閉幕

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

市議会とともに ～「プラスチックごみゼロ宣言」を発信～

2004年	保津川下りの船頭さんによる清掃活動が始まる
2007年	保津川の環境保全に取り組む NPO法人プロジェクト保津川が誕生(法人設立は2008年)
2012年	内陸部の自治体初 海ごみサミット2012亀岡保津川会議を開催
2013年	川と海つながり共創(みんなでつくろう)プロジェクト設立
2015年	環境先進都市を目指すビジョンを示す
2018年	亀岡ゼロエミッション計画を策定

2018年12月13日
かめおか
プラスチック
ごみゼロ宣言

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

～2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指す～

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」～宣言文～

深刻化する海洋プラスチック汚染は、魚や海鳥などの海の生態系にまで大きな影響を与え、地球規模の問題となっています。ここ亀岡でも、大量のペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみ問題が、保津川をはじめとする自然景観や市民の生活環境、そして観光にも大きな影響を与えているだけでなく、「市の魚 アユモドキ」に代表される多様な川の生態系にも影響を及ぼすことが危惧されています。

この問題は、私たち一人ひとりの身近な問題として捉えていく必要があります。そして、私たちにできる身近な取組みを国内外の他都市とも連携し、湧き上がるような大きな流れを巻き起こしていかなければ解決できるものではありません。

今、世界では、使い捨てプラスチックごみの削減に向けた動きが加速しています。亀岡市は、平成24年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取り組みを発信してきました。こうした取り組みをさらに深化させ、みなさんとともに2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指します。

そして、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。

2018年12月13日　亀岡市長 桂川 孝裕　亀岡市議会議長 湊 泰孝

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

なぜ、いま、「プラごみゼロ」を目指すのか

亀岡市 KAMEOKA CITY

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」～目指す目標～

1　市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋禁止に踏み切り、エコバッグ持参率100%を目指す取組みを進めます。

2　「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染（マイクロプラスチック）問題に立ち上がる意識のつながりを呼び掛けます。

3　当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。

4　使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいてもリユース食器や再生可能な素材の食器を使用します。

5　市民や事業者の環境に配慮した取り組みを積極的に支援し、世界最先端の『環境先進都市・亀岡市』のブランド力向上を目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

～エコバッグ持参率100%からライフスタイルの変革へ～

「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

プラ製レジ袋提供禁止へ～世界に誇れる環境先進都市・かめおか協議会を設立～

2019年4月に発足。プラ製レジ袋提供禁止条例のほか、市の環境政策について多様な立場から幅広く議論を行う。

▸会長は、保津川遊船企業組合の代表、副会長はNPOの代表と商工会議所の専務理事がそれぞれ務め、多様な意見を発言しやすい体制を構築
▸事務局を市が努め、議事の停滞を防ぐ。傍聴可能とし、メディアにも公開。
▸「消費者の理解があれば、レジ袋禁止は可能」との声が事業者から出てきた。

参画組織	組織数
住民関係組織	1
観光事業者	6
小売事業者	11
学識経験者	2
NPO等	7
金融機関	4
行政機関	4

（産官学35団体で構成）

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

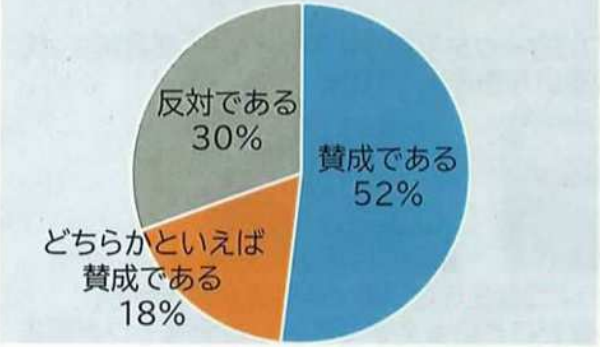
2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

プラ製レジ袋提供禁止へ　～市民説明会を開催～

■意識調査（28会場・610名回答）

レジ袋の有料化、提供禁止条例に



【説明会参加者】

年齢		職業		住まい	
10代以下	0	会社員	112	市内	577
20代	4	自営業	47	市外	3
30代	5	公務員	3		
40代	31	学生	18	性別	
50代	87	無職	275	男	367
60代以上	437	その他	122	女	208

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

プラ製レジ袋提供禁止へ～そしてプラ製レジ袋提供禁止条例制定へ～

【条例の概要】

▸事業者がプラスチック製レジ袋(生分解性の袋を除く)を提供することを禁止

▸生分解性の袋であっても無償で提供することを禁止

▸違反者は、審査会の意見を聞いた上で氏名を公表

2019年8月20日 レジ袋有料化開始 → 2020年3月24日 条例制定 → 2021年1月1日 条例施行 → 2021年6月1日 氏名公表施行

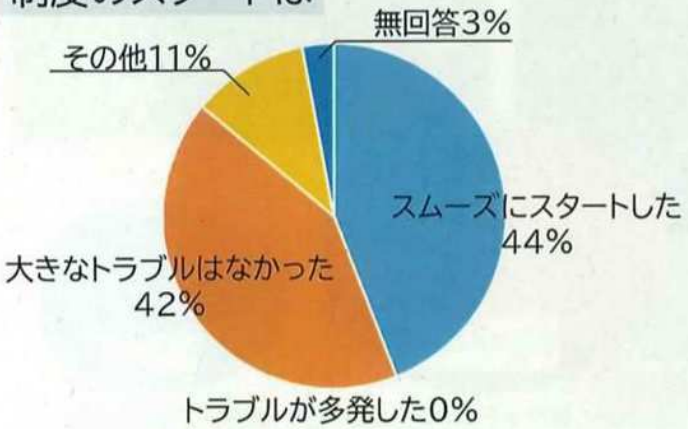
世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

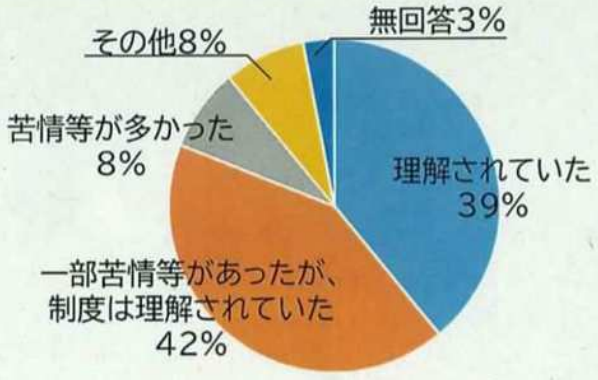
亀岡市 KAMEOKA CITY

条例がスタート。事業者の反応は

制度のスタートは



お客様の反応は



世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

プラ製レジ袋提供禁止条例がもたらした効果

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

プラ製レジ袋提供禁止条例がもたらした効果

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

エコバッグ普及へ　～「環境×芸術」KAMEOKA FLY BAG Project～

亀岡の大空を舞う
パラグライダー

JR亀岡駅北広場に現れた巨大エコバッグ

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

エコバッグ普及へ　～「環境×芸術」KAMEOKA FLY BAG Project～

巨大エコバッグを解体し、世界に一つの
エコバッグを作るワークショップを開催
200名の市民が参加した。(2019.7)

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

～まちとともに～

「リバーフレンドリーレストランプロジェクト」
「亀岡のおいしい水プロジェクト」
「リユース食器利用促進事業」

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

まちとともに　～リバーフレンドリーレストランプロジェクト(2021.3)～

■環境に配慮した取組みを実践する市内飲食店を登録
■亀岡市のブランドイメージ向上と地域経済の活性化を目指す。
■店舗はエコスポンサー料3,000円を負担。次世代教育に活用

【認定基準】

●次の認定基準を全て満たす
- 発泡スチロール容器は使用しない
- ごみの減量と適切なリサイクルに取り組む
- 店舗内での商品の提供には、使い捨て食器等を使用しない
- テイクアウト時の紙袋やカトラリー類は顧客の要望があった場合のみ提供
- 紙ストローは顧客が希望した場合にのみ提供
- 無料でマイボトルに給水できる

●「ペットボトル製品を販売しない」などのオプション基準を２以上満たす

（店頭サイン）

登録店舗：27店
（2025. 6現在）

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

まちとともに　～「亀岡のおいしい水」プロジェクト(2021.3)～

～ペットボトルの削減を目指す、マイボトル普及へのアプローチ～

【給水スポットの拡大】
- ▸市内公共施設10か所、小・中・義務教育学校22校(45台)、高校2校(7台)に給水器を設置
- ▸市内事業所を給水スポットに登録(2025.6 現在93か所)

【マイボトル普及】
- ▸企業と連携し、イベント等を通じてマイボトル普及を啓発

【新たなライフスタイルの提案】
- ▸アプリを使い「給水スポットを探す」新たなライフスタイルを提案

『おいしい水スポット』サイン

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

まちとともに　～「リユース食器」利用促進事業(2020.7)～

市内で開催されるイベントで使用するリユース食器の借り上げ費用の一部を補助

【補助金の概要】
- ▸対象者
  - ・市内でイベントを主催する団体及び個人
  - ・市内で開催するイベントに出店する団体及び個人
- ▸対象事業
  - ・市内で開催されるイベントにおいて、リユース食器を合計100個以上利用する事業
- ▸補助率
  - ・リユース食器の借上げ費用の3分の2以内（上限20万円）

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

～企業とともに～

「連携協定・パートナーシップ協定」

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

項番	事業者名	締結日	取組内容	分野・ｶﾃｺﾞﾘｰ
1	ソフトバンク株式会社	R1.10.30	教育分野、環境分野における連携	環境教育
2	株式会社ユニクロ亀岡店	R2.3.13	市内中学校における環境教育の実施	環境教育
3	BRITA Japan株式会社	R2.6.30	ペットボトル削減に向けた取組の連携	環境教育
4	(一社)Social Innovation Japan※	R3.4.9	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組	ﾏｲﾎﾞﾄﾙ・PET削減
5	ウォータースタンド株式会社※	R3.6.3	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組	ﾏｲﾎﾞﾄﾙ・PET削減
6	株式会社DESIGN WORKS ANCIENT※	R3.6.22	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組	ﾏｲﾎﾞﾄﾙ・PET削減
7	日本紙業有限会社※	R3.7.27	資源回収拠点の拡充等の取組連携	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
8	タイガー魔法瓶株式会社※	R3.7.28	ステンレスボトル回収モデル事業の取組	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
9	株式会社カネカ※	R3.11.25	生分解性の袋の活用方法検討・研究	取組連携
10	株式会社カインズ※	R3.12.3	連携による環境配慮の取組	取組連携
11	株式会社セブン・イレブン・ジャパン	R4.1.24	ペットボトル回収機の設置、リサイクルの取組	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
12	日本環境設計株式会社(現:JEPLAN)※	R4.2.17	ケミカルリサイクル推進の取組	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

項番	事業者名	締結日	取組内容	分野・ｶﾃｺﾞﾘｰ
13	株式会社斗々屋※	R4.5.13	ごみを出さない暮らし、社会に向けた取組	取組連携
14	株式会社ecommit※	R4.8.17	リユースの環を広げる取組を促進	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
15	株式会社JTB※	R5.8.28	サステナブルな観光に資する好循環の取組支援	取組連携
16	テラサイクルジャパン合同会社※	R5.9.29	使い捨てのライフスタイル脱却への取組強化	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
17	京都 烟河 ／ 府立農芸高等学校※	R6.2.26	コンポストによる堆肥化の資源循環に向けた取組強化	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
18	ニチコン株式会社 ／ 日産自動車株式会社	R6.4.23	電気自動車を活用した脱炭素化及び強靭化	脱炭素社会
19	株式会社ごみの学校※	R6.7.24	WEBメディアを通じた使い捨てのライフスタイル脱却への取組強化	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
20	アミタホールディングス株式会社	R6.9.9	循環との共生による持続可能なまちづくりに向けた将来ビジョン策定の技術的支援	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
21	ENEOS株式会社 ／ 植田油脂株式会社※	R6.10.17	脱炭素・資源循環の取組に資する廃食油の利活用についての普及啓発	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
22	株式会社マーケットエンタープライズ	R6.12.17	ごみの削減と循環型社会の形成を目指したﾘﾕｰｽ事業の促進	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ
23	トヨタ紡織株式会社※	R7.3.17	市民・企業との連携による廃プラスチックを利活用する仕組みの構築	ｻｰｷｭﾗｰｴｺﾉﾐｰ

※かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定:18事業者

企業との連携協定の分野・カテゴリー

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

※かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定:18事業者

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

企業とともに～マイボトル普及拡大によるペットボトル削減～

mymizuアプリによる無料給水スポットの発信等

mymizu

市内の全小・中・義務教育学校へ給水機設置(計45台)

WATER STAND

寄贈されたミニボトル7,000本を子ども達へ

POKETLE. ONLY THE NECESSARY DESIGN WORKS ANCIENT Co.,Ltd

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

企業とともに～環境をテーマに様々な取組の連携～

生分解性素材の活用に向けたプロジェクトの実施

kaneka

くみまちﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄによる環境に関する共創活動の展開

CAINZ

ごみを出さないゼロウェイストな取組の実践

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

企業とともに～サーキュラーエコノミーの構築に向けて～

店頭でのペットボトルの回収・再資源化の取組

使用済みステンレスボトルの回収・再資源化の取組

資源回収拠点の拡充によるリサイクルの推進

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

企業とともに～サーキュラーエコノミーの構築に向けて～

ケミカルリサイクルによるボトルtoボトルの推進

リユースの環を広げる取組を促進

使い捨てのライフスタイルからの脱却

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

ゼロエミッションの実現に向けて　～プラスチック資源の循環（2024.6）～

家庭から排出されたプラスチックを素材の一部に配合したごみ袋が完成し、資源循環が実現

プラスチックごみ

指定ごみ袋

▸素　材　ポリエチレン
▸配合率　１０％
▸サイズ（1枚単価）
・燃やすしかないごみ
　１０ℓ（10円）/２０ℓ（20円）
　３０ℓ（30円）/４０ℓ（40円）
・埋立てるしかないごみ
　１５ℓ（15円）/３０ℓ（30円）

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

環境先進都市の 情報発信・交流拠点

Circular Kameoka Lab

亀岡市 KAMEOKA CITY

Circular Kameoka Lab　～サーキュラーかめおかラボ～

「環る（めぐる）」をテーマに、
様々な環境の取組を展示するほか、
次世代向けの環境学習、イベント、
ワークショップ開催などを通じた地域の
情報発信・交流・イノベーション拠点に活用

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

2030年に向けて～私たちの取組～

亀岡市 KAMEOKA CITY

環境を軸にしたブランド力向上とシビックプライドの醸成

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市

ご清聴ありがとうございました！

亀岡市 KAMEOKA CITY

世界に誇れる環境先進都市・亀岡市